

希 望

3月・4月号

No.463



2024.年3月26日知的障害者育成会

高槻手をつなぐ親の会発行責任者 窪田 三穂

団体事務所 TEL 072(672)0672

ホームページ takatuki-oyanokai.jp

「希望」休刊のお知らせ

いつも会報「希望」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。
このたび、会報「希望」は、この第463号をもちまして、休刊することとなりました。
毎号、会員の手作業で編集印刷し、約300部余りを作り、手分けして160を超える団体と個人にお届けしてまいりました。
会員の減少と高齢化によって会の活動の大幅な見直しをせざるを得ない状況となったため、会員の負担を減らし、新しい活動に注力するため、誠に残念ですが従来の紙での発行は今回が最後となります。何かの折には、臨時号の発行や何らかの形で発信できたらと考えています。長い間、ご愛読いただき、深く感謝申し上げます。
今後とも、当会活動にご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。今後の活動等については、ホームページ [高槻手をつなぐ親の会 \(takatsuki-oyanokai.jp\)](http://takatsuki-oyanokai.jp) を引き続きご覧ください。

月例会

2月21日（水）の月例会は、規約の改正と来年度予算案を中心に話し合いました。

電話当番は3月までは通常通り行い、4月以降は廃止することに決まりました。

5月からは交流会として毎月第3水曜日に開きます。規約案として、「交流会は、会員相互の交流のため、原則として毎月開催し、本会の活動に必要な事項の審議、決議も行う」となっています。

第1回目は5月15日（水）ゆうあいセンター4F会議室1

バスレクについて話し合います。皆様のご参加よろしくお願い致します。

月例会担当（加地 畠山 山口）

新年と成人を祝う会

2月20日（火）に「木曽路」にて参加者18名で新年と成人を祝う会を行いました。普段は話せないようなことまで、食事をしながらゆっくりと話せて、終始楽しそうな雰囲気でした。こういう機会が少しずつでも増え、皆さんと親睦を深めていけたらと思いました。参加いただいた皆様ありがとうございました。以下に感想を載せます。

※ 久しぶりに子どもさんが成人を迎えた会員さんを、お祝い出来てよかったです。食事も、参加者でワイワイと賑やかに出来てよかったです。

※新年と成人を祝う会に出席させていただきありがとうございました。

食事も美味しくいただき、何よりも、懐かしい方と会えて楽しい一日でした。ありがとうございました。

※お天気が心配でしたが雨にあわず、久々の長距離サイクリングで「木曽路」へ。運動の後のごちそうはさらに美味しく、おしゃべりにも花が咲きました。楽しいひと時ありがとうございました。

※久しぶりにお会いできた会員さんもいらっしゃって、「わいわいがやがや」楽しい時間を過ごすことが出来ました。又、成人を迎えた息子にお祝いを頂きありがとうございました。息子も「やったぁ」と大喜びしてました。

※普段お話しする機会がない方ともお話しすることが出来てよかったです。

（担当 窪田）

ほっこりタイム

1月は、NHKでも放送していた「非常に敏感な子」を育てているママさんが、親の会会員の窪田さんに話を聞きに来ました。「発達障害の子と同じ支援をしてもらえる様に学校に伝えて下さい」とアドバイスしていました。同じように障害を持つ子どもを育てる先輩と、色々話し合える事は良いですね。「一生幸せなHSCの育て方」（杉本景子著）の本もあります。震災の話で、高槻支援学校が避難所ですか？と聞かれたので、高障連の山田さんに聞きました。高槻支援学校の校長先生が大阪府に避難所の申請をして許可を取り、高槻市へ報告したら、市の避難所として高槻支援学校にも支援物資が届けられるとの事でした。2月は、「高槻支援学校生だが不登校が続いている」・「DVDの歌画像に執着して寝る時間がすごく遅くなってる」・「校区の先生が産休が多くて、支援学級の子の支援が無い時もあり、心配した事もあり、教育委員会の方と話がしたい」などの相談がありました。

（担当 加地）

ボウリング同好会

辻子のラウンドワン高槻店で、毎月第4日曜日午前10時より2ゲーム楽しんでます。ガーターにならないよう「バンパーレーン」を設けています。
2月25日(日)6名で3レーン借りて2ゲームしました。
3月10日(日)は高身連ボウリング大会にみんなで参加し、素晴らしい参加賞をもらいました。

※料金 貸し靴代390円 ゲーム代2ゲーム(8名以上で1380円)
親の会会員及び賛助会員には親の会よりゲーム代780円補助有
障害者手帳持参で団体扱いは100円引きになります。

(担当 城)

絵画教室

毎月第1日曜日10時からゆうあいセンター4F会議室で専門の先生の指導を受けながらやっています。

会費 親の会会員及び賛助会員は無料 一般月200円
参加者の作品はゆうあいセンター1Fに展示しています。
5月は第3日曜日 8月はお休み

(担当 城)

ミュージックケア

支援学級不登校のお子さんが久しぶりに参加してくれました。ミュージックケアが楽しみな事になって、集団に慣れて毎日登校できる様になると良いなあと思いました。3年続けて参加してるお子さん何人かが名札に自分の名前を、マジックで書ける様になってますし、言葉の無いお子さんが手で、「これ嫌」「やりたくない」と伝える事も出来る様になってます。また、パパさんが、4才、2才の男の子を連れて参加してます。今のパパさんは、育児に積極的に参加しているので頼もしいなあと思います。私達のころとはえらい違いです。

(担当 加地)

福祉展

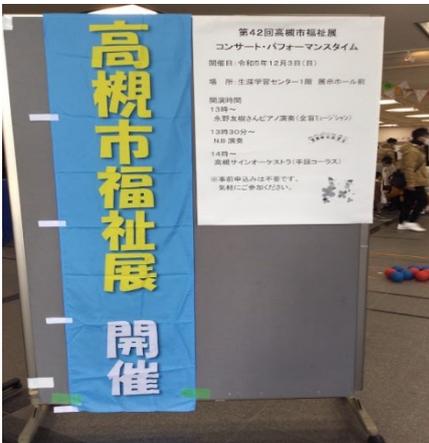
12月2、3日の両日、第42回高槻市福祉展が開催されました。コロナで中止・縮小開催を経てフル開催は3年ぶりです。メイン会場の高槻市立生涯学習センター1階だけでなく、3階の会議室2室も使い、展示・映画上映、講演会などを行いました。1階では事業所製品の販売、模擬店や障害者スポーツなどの体験コーナーも賑わいました。ウォークラリーはコースを縮小しましたが、5コースに分かれて街かど点検やふれあいキャンペーンに取り組みました。今回は初めて3階の会議室をスタンプラリーの景品引き換え所にして、社協からお借りしたガチャガチャも好評でした。そのほか、ゆうあいセンターの図書コーナーの絵本やマンガなど、親しみやすく障害を知る本を展示しました。ふだんセンターの蔵書を知らない人にも、高槻市民どなたでも借りられることをアピールできたかと思います。障害を知る動画上映も初めての試みでした。映画は、筋ジストロフィーの青年の実話に基づく「こんな夜更けにバナナかよ」を上映、その後は原作者の渡辺一史さんのほかインクルーシブ教育研究所の堀智晴さん、TVディレクターの澤則雄さんをまじえて「津久井やまゆり園事件を教育と福祉の観点から問い直す」と題したシンポジウムを行いました。参加者もまじえて熱い意見交換がされたことは福祉展でも画期的だったのではないかと思います。

オープニングは「命かがやけ高槻第9の会」の皆さんの歌声で始まりました。2日目のパフォーマンスタイムでは全盲ミュージシャン永野友樹さんのピアノ弾き語り、難病とともに生きる男性デュオNB、手話コーラスの「高槻サインオーケストラ」の三組が登場、最後は会場も一体になって「ふるさと」を熱唱して幕を閉じました。

コロナ前より、来場者はやや少なかったものの、新しい取り組みもあり、今後の課題もありますが充実した二日間でした。

障害者団体だけでなく、高槻支援学校やボランティア団体、社協の皆さんとともに垣根を越えた福祉展の活動そのものが、高槻の共生社会の第一歩なのではないでしょうか。

(堀切きみよ)



キャンパス・オリーブ個人研究発表

学びの場キャンパス・オリーブ（自立訓練）では週1回「個人研究」という授業時間があり1年生は自分の住んでいる地域の事を調べて、実際に他の生徒や先生を地域案内をします。2年生は自分の興味のあることをテーマとして研究しています。その研究成果の発表が、3月2日キャンパス・オリーブがある「大阪保育福祉専門学校」のホールで外部のお客さん呼んで、行われました。テーマはバラエティーに富んでいて、「好きなアニメの事」「好きなゲームの事」「好きな俳優の事」「鉄道の事」「恋愛について」「野球について」「動画の編集について」などを10分間プレゼンし、視聴者からの質問に答えるという形式でした。1年の入学当初は「一言もしゃべれない子」「自分のことだけを機関銃のようにしゃべる子」だったのがこの発表は堂々と話し、質問にもしっかりと受け答えが出来、しかも良くまとまった内容に成長ぶりを感しました。まだまだ伸び盛りの青年の彼らのこれからの成長がとてたのしみです。しかし、残念なことに、自立訓練の枠組みの中では、2年が限度で3年目、4年目を希望しても難しいのが現実で、せっかくの彼らの成長を止めてしまうことになるのではと危惧します。審査会に延長申請して通れば3年目まで認められる市町村も増えてきています。高槻市はじめ北摂でも是非3年目を認めていただき、学びの場が増え、若者の成長を止めないよう考えていただければと思います。

キャンパス・オリーブ2年和田拓己（母）

4月2日は「世界自閉症啓発デー」

今年は、4月2日13時30分から、生涯学習センター多目的ホールで、映画「僕が跳びはねる理由」を上映します。重度自閉症の東田直樹さんが13歳の時に出版しベストセラーとなった「自閉症の僕が跳びはねる理由」をもとに、5人の自閉症の少年少女の姿を詩情豊かに描いた作品です。東田さん自身の登場する動画の上映と、「共に生きる社会へ～合理的配慮の義務化スタート！」と題したミニトークもあります。この4月1日から事業者による合理的配慮が義務化されることを受け、高槻の状況を、社会福祉法人「北摂杉の子会」就労支援部の星明聡志さんにお話し頂きます。障害者事業所の製品販売もあります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

例年高槻の春の風物詩となりつつある青い光のリレー、「ライト・イット・アップ・ブルーたかつき」は3月26日夕刻からの予定です。おたのしみに！

(堀切きみよ)

高障連の取り組み

高槻警察移転説明会

1月17日、高槻警察署の移転について説明会がありました。現在の警察署の建物は階段しかない2階に上がらなければならず、とても不便です。移転は実際にはまだ数年後だそうです。およその設計図に基づき説明を受けました。場所は救急救命センター跡地で、現在土地の整備がすすんでいます。予定では、市民が関係するところはほとんど1、2階になるそうです。免許の更新、落とし物や各種の届け出、相談などは主に1階で、上層階には拘留施設や、警察官が訓練を行う武道場などができる予定とのこと。警察署とはいえ、市民がいろいろな困り事の相談などで訪れることもあるのだから、近寄りやすい雰囲気ではなく、ホスピタリティを持ってほしいとお伝えしました。障害者や高齢者が保護された時などは、1階の応接室などを使用するとのことでした。障害者が迷子になったり、虐待などの被害を受けることやトラブルに巻き込まれることも残念ながらまだまだあります。いざという時、市民が頼れる場所として、建物はもちろん心もバリアフリーであってほしいですね。

(堀切きみよ)

人権教育懇談会

2月21日、人権教育懇談会がありました。今回は、文科省通知後の通級指導教室について説明を受けました。現在、市内の2校に1校の割合で整備がされつつあり、小学校では約350名、中学校で約300名が通っているそうです。学齢期の方々の関心は高く、私たちも今後の推移を注視していきたいと思っています。

通常学級、支援学級、通級指導教室のいずれを選択したとしても、当該の児童生徒にとって適切な支援がうけられるよう最大限の配慮を求めたいです。

(堀切きみよ)

バリアフリー学校見学会

2月28日、「バリアフリー学校見学会」で城南中学校を訪問しました。来年度、肢体不自由の生徒さんが入学予定とのことで、エレベーターの新設、スロープの整備などがすすめられていました。できたばかりのエレベーターに乗せていただいたり、学習室やトイレを見せていただきました。卒業式の歌の練習を見せていただき、生徒さんたちの爽やかな歌声や元気な挨拶を嬉しく思いました。先生方も生徒さんもとても明るくフレンドリーでした。高障連の講演会や世界自閉症啓発デーのチラシも廊下に掲示してくださっていたのが嬉しかったです。いま中学校では、「親子方式」で近隣の学校で調理した給食が運ばれてきて、配膳室で各教室に分けられているそうです。エレベーターは、当該の生徒さんが乗る以外は、基本は使われないそうですが、今後は給食の運搬に活用することも考えられるとのことでした。一般の生徒さんでも一時的に怪我や体調不良になることもありますし、地域の方が来校される機会もあり、エレベーターやスロープは誰もが安心安全な学校に必要です。障害のある人の存在が、社会全体のバリアフリー推進につながっていくのだと思えました。

「西冠小学校」「城南中学校」「若松小学校」のはじめの文字をとって「にじわ学園」として、幼稚園と小中学校で連携している様子がとても印象的でした。障害のある子が地域の学校を選択するとき、「できることを一緒に考えるので、安心してください」という姿勢を示してくださることが大きな決め手になります。支援学校か地域の学校か、児童生徒と保護者が十分な情報を得て、決められるようであってほしいと思いました。

お忙しいなか、丁寧に案内してくださった校長先生はじめ皆様ありがとうございました。
(堀切きみよ)

